

林業労働災害の防止を

～ゼロ災害を目指して～

1 はじめに

労働災害のない職場づくりは、事業主にとっても、労働者にとっても最大の願いです。

しかし、私たちが携わる作業現場は山林という厳しい環境のもとで、作業箇所が点在し、しかも、広範囲にわたっており、また、作業箇所の移動頻度が高いと言う典型的な屋外型の業種です。このため、作業者同士の意思の疎通が計りにくい、管理者の安全管理が行き届きにくい等、災害発生を高める要因が多く存在した職場です。

山林という特殊な職場環境の中での労働災害を減少させ、災害のない職場にするためにはどのようにしたらよいのか、その手法について触れてみたいと思います。

2 労働災害の現状

全産業でみると、労働災害による死傷者数はここ数十年減少傾向にあります。林業に関しては平成5年度以降増加傾向にあります（図-1）。産業別の受傷者数をみると林業は他の産業に比べて大変少ない数値となっていますが、これは就業者の相対数が少ないためです。

これを、年千人率^(注1)と比較すると林業における発生率は極めて高く、他の産業における発生率

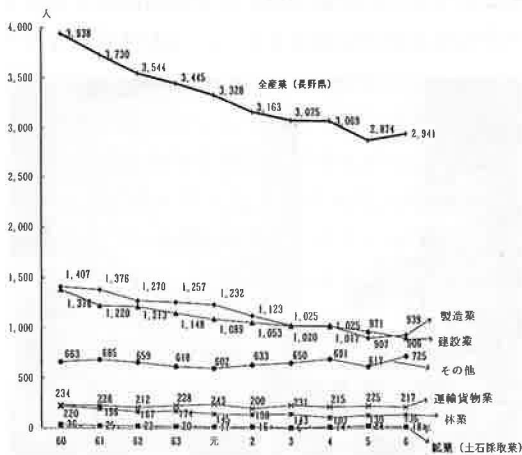


図-1 全産業の労働災害の推移 (休業4日以上)

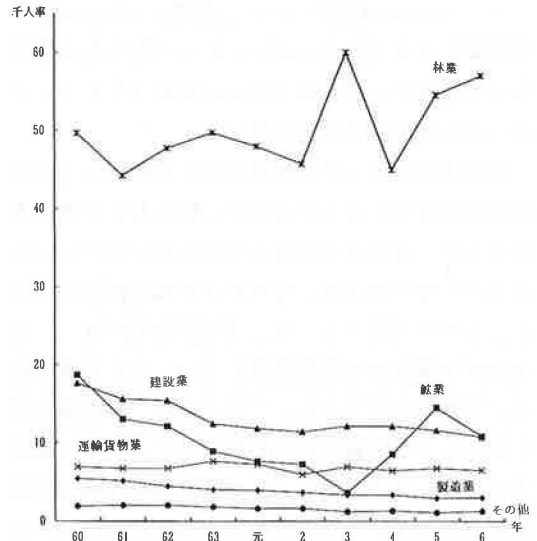


図-2 全産業の年千人率の推移

(注1) 年千人率……労働者1,000人当たり1年間に発生する死傷者数を示すもので次の式で表される。

$$\text{千人率} = \frac{\text{1年間の死傷者数}}{\text{1年間の平均労働者数}} \times 1,000$$

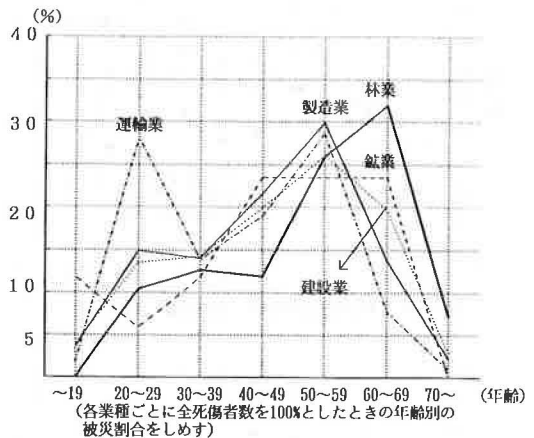


図-3 平成6年度業種別・年齢別労働災害発生状況は20以下なのに対して57(平成6年度)と3倍近い発生率となっています(図-2)。

又、年齢別の災害発生状況についてみると、他の産業に比べて高齢層において特に多く発生しています(図-3)。

平成6年に発生した死亡災害は3件で、被災者はいづれも60才代の人です。

平成7年は取り纏め中であり正確な数字ではありませんが1件の災害が発生し60才代の方が亡くなっております。

作業別の災害発生状況については、「木材などの物質に激突され」が29人(21.5%)、次いで「チェーンソー・刈払機等による切れ・こすれ」が27人(20.0%)、「枯れ枝等の飛来・落下」が25人(18.5%)となっています。

3 労働災害を防止するためには

災害を防止するためにはその原因となるものを取り除けばよいわけです。中には物理的に取り除けないものもありますが、大半の場合は小さなミスが原因となっています。

そこで、事前にその原因となるものを十分熟知したうえで作業に取りかかり危険を回避することが重要となってきます。

どんなときに災害が多発しているか。

- 1) ウッカー
- 2) ボンヤリ
- 3) 横着
- 4) 思い違い
- 5) 不注意

ほとんどの災害は意識の欠如から発生しています。

この原因を取り除くための手法として、グルー

プで行う「危険予知ミーティング」と個人で行う「指差し呼称」について説明をします。

1) 「危険予知ミーティング」

★ 危険予知とは

危険予知とは、作業をする仲間同士で、あるいは一人ひとりが、作業のなかにひそんでいる危険を危険と気付くことです。

その作業を行うにあたって危険予知が十分行われることによって、注意力、集中力が喚起され災害から身を守ることができます。

★ 危険予知のしかた

危険予知のしかたにはいろいろな方法がありますが一般的な方法として、毎朝、作業現場において、危険を危険と気付くための話し合い、すなわち「危険予知ミーティング」を行って、その日の作業における危険な事項を確認しあいその事項について注意しあう方法です。

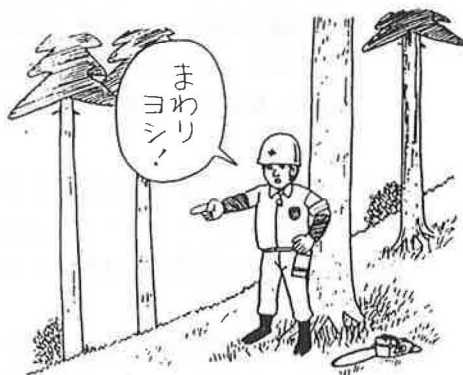
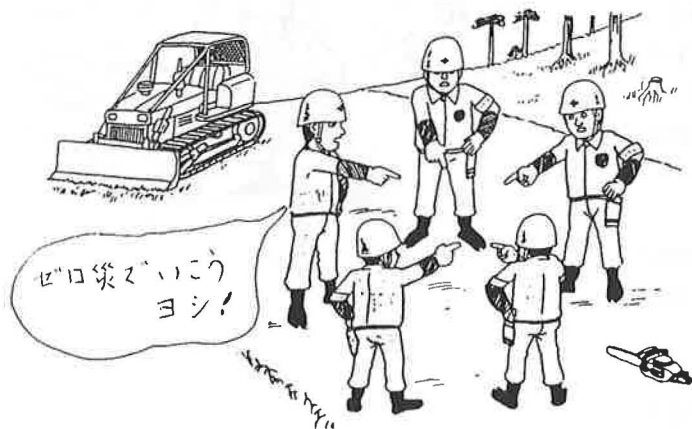
★ 危険予知ミーティングの実践方法

(1) ミーティングの人員、所要時間

作業現場で、作業にかかる前に、作業班(同じ作業をする5人程度以下の作業者同士)で、短時間(3~5分程度)のミーティングを行います。

(2) ミーティングの内容

① 作業班長が、作業にひそむ危険を指摘し、安全な作業内容、手順について作業者に指示し、ときには班員に復唱させます。そして、その日の安全事項を決めま



す。

- ② また、班の全員が、当日の作業で危険が予想される点について、意見を出し合って、その日の安全注意事項を決めます。

(3) 指差し唱和

ミーティングで決めたその日の安全注意事項を班の全員で唱和します。全員で唱和して確認することにより、気合いを一致させ、作業班の一体感、連帯感を盛り上げるのに役立っています。

やり方は、円陣を組むなどして、左手に腰を当て、右手で前方を指差しして全員で「安全確認、ヨシ」などと唱和し確認する方法です。

2) 「指差し呼称」

★ 指差し呼称とは

作業を安全に誤りなく進めるため、危険を伴う作業の要所要所で確認すべき対象をしっかりと見つめ、腕を伸ばして、指を差し「伐倒方向、ヨシ」などと、大きな声を出して唱えて確認する方法です。

指差し呼称は、危険を伴う作業の要所要所で、集中力を高め、「うっかり、ぼんやり」などの事故を防ぐのに有効です。

★ 指差し呼称の仕方

指差し呼称は、目・腕・指・口・耳などを総動員して自分の作業行動の正確性、安全性を確認するものです。

- (1) 目は確認すべきものをしっかりと見つめ
- (2) 腕・指はきちっとのばして対象を差し、確認事項を呼称し、その後、指を耳元まで振り上げて、「ヨシ」で降り下ろします。

なお、腕や指は「型」にこだわる必要はありません。

- (3) 耳で自分の声をきき確認をします。

以上が「危険予知ミーティング」「指差し呼称」の方法ですが両方に共通して注意すべきことは以下のとおりです。

- ① 動作には適度の緊張が必要です。正しい姿勢で、節度をつけてキビキビと行うことが必要で

す。

- ② 声を出すのをいやがって「指差し確認」だけにとどめたり、声は出しても、腕、指の動作を怠ったりすると、効果が落ちます。できるだけ「指差し」をして「呼称」をすることが大切です。

- ③ 必要以上に大声を出す必要はありませんが、「恥ずかしさ」「テレくささ」などをふっ切るために、大声でしましょう。

4 おわりに

安全は与えられるものではありません。

私たち一人一人が危険を危険と認識して、それを回避する努力が必要です。

上記に掲げた手法は安全確認の一例です。事業主、作業者が一丸となって、それぞれの事業所にあった手法を考え、実践することこそが労働災害を無くす原点だと考えます。（指導部 巾下）

参考文献

平成7年9月発行

林業・木材製造業労働防止協会

「林材業ゼロ災運動」

